深川市学校配置基本方針に基づく小学校にかかる対応について

1. 平成24年11月9日決定の深川市学校配置基本方針における小学校の配置の考え方

- (1) 「3・望ましい学校の配置の考え方」の「学校配置の望ましい姿について」の記述では、「クラス替えができることの効果」や「適切な切磋琢磨が必要である」などの観点から、1学年2学級から3学級の標準規模が望ましいと考えることに加え、「新学習指導要領を踏まえ、授業時数の増加に対応して、児童の負担増となることから、児童の生活面を重視し、通学時間に配慮した学校配置に努めることとする。」としている。

※ 標準授業時数の増加

区 分	実施時期	標準授業時数合計	増加時数
旧学習指導要領	平成14年4月1日～	5,367	—
新学習指導要領 (現行)	平成23年4月1日～	5,645	278
次期学習指導要領	平成32年4月1日予定	5,785 (見込み)	140

注1：実施時期は、各学習指導要領の標準授業時数による授業を開始した時期。

注2：標準授業時数合計は、第1学年から第6学年までの総授業時数の合計

(具体的には、第1学年は1週当たり旧22.3コマが新24.3コマで2コマ増に、また、第6学年では1週当たり旧27コマが新28コマで1コマ増となった。)

注3：次期学習指導要領の内容は、平成28年末までに公表された資料による。

- (2) 「4. 学校の配置案」では、「市内小学校6校においては、複式学級による学校運営がなされている小学校もあるが、児童の基本的な生活習慣の習得や学びの姿勢を自覚するなど生活面を重視し、当面現在の学校配置を維持する。」としており、ただし書きで、「平成28年度以降において、改めて、児童数等の状況、社会情勢の変化などを踏まえ、保護者等地域との検討を行う。」としている。

2. 平成28年度における児童数等の状況や社会情勢の変化について

(1) 児童数及び学級数の状況

平成28年6月現在での住民基本台帳に基づき推計が可能な平成33年度までの各小学校の学年ごとの児童数と学級数の推計では、別表のとおり、児童数は平成28年度から平成30年度にかけては減少傾向にあるが平成31年度以降は横ばいとなり、学級数では北新小学校と音江小学校が当初の推計では各学年1学級であったが、北新小学校では平成26年度より複式学級が生じ、平成27年度以降は複式学級が2学級となったこと、また、音江小学校でも平成29年度か

らは複式学級の設置が想定されているが、深川小学校、一巳小学校の3校は当初の推計と変動がなく、納内小学校が平成29年度、多度志小学校が平成33年度にそれぞれ単年度ではあるが複式学級が1学級解消する年度が想定される状況にある。

全体的には、平成24年度当時に推計した平成30年度の推計値と今回の推計における最終年度の平成32年度の推計値の比較では、児童数合計では、782人に対し742人で40人(5.1%)の減少、学級数合計では、42学級に対して40学級で2学級(4.8%)の減少となるが、今回の推計期間中においてはすべての小学校で複式学級を含めて3学級以上となることから、児童数及び学級数については平成24年度の基本方針策定時と大きくは変わらない状況と判断できるものである。

(2) 社会情勢の変化等

① 学習指導要領の改訂

現在の小学校学習指導要領は平成20年4月施行されたものであるが、標準授業時数については、1の(1)記載のとおり、旧学習指導要領に比べ全学年の合計授業で時数287時数が増加し平成23年4月1日から実施されており、そのことを踏まえ、本学校配置基本方針においては、「授業時数の増加に対応して、児童の負担増となることから、児童の生活面を重視し、通学時間に配慮した学校配置に努めることとする。」としている。

次期学習指導要領については、小学校は平成32年度から全面実施が予定されており、標準授業時数については、現行に比べ3年生以上がそれぞれ年間35時数、全学年の合計で140時数増加する見込みであることから、本学校基本方針の考え方を引き続き踏襲する必要があると考える。

② 学校施設について

小学校の校舎等の学校施設については、建築年度の古い順では、北新小学校の校舎等の完成が昭和53年度、以下、一巳小学校が昭和59年度、深川小学校が昭和62年度、音江小学校が平成5年度、多度志小学校が平成9年度、納内小学校が平成19年度で、いずれの建物も耐震工事などを施工し耐震基準を満たしているおり、一番建築年度の古い北新小学校も含め、現行の学校施設で当面使用が出来なくなるような施設はないことから、現状のまま学校を存続することには支障は無い。

3. 保護者等地域の意見

平成28年8月29日から9月5日までの間に、小学校区ごとに6地区で、小学校及び保育所・幼稚園の保護者、町内会長、市議会議員、学校関係者を対象に、「小学校に係る学校配置基本方針地域協議会」を開催し、平成24年度に決定した深川市学校配置基本方針における小学校の配置の考え方や平成28年6月現在の住民基本台帳に基づく児童数や学級数の推計などを説明し出席者から意見を聞いた。

(1) 地域協議会の開催状況

地区名	開催期日	開催場所	出席者数	備考
一已小学校地区	8月29日(月)	一已公民館	16名	
深川小学校地区	8月30日(火)	中央公民館	12名	
多度志小学校地区	8月31日(水)	多度志コミセン	21名	
音江小学校地区	9月1日(木)	音江公民館	11名	
納内小学校地区	9月2日(金)	納内コミセン	21名	
北新小学校地区	9月5日(月)	北新公民館	23名	

(2) 主な意見

区分	意見の内容	地区(校区)名
(1)統合についての意見	①統合を賛成するものはいない。実際は児童がいないから仕方ないを考える。	一已小
	②小学校は生活面を重視するのであれば、通学に時間がかかるのは好ましくない。	一已小
	③地域に学校がなくなると住みづらくなる。	納内小
	④人数が少なくても小学校は地域に残してほしい。	納内小
	⑤こういう会議が開かれると「統合の話になるのでは」と思ってしまうし、いつの間にか統合の話が一人歩きする。保護者の立場としては統合してほしくない。	音江小
	⑥PTAの中では、小学校1年生が1時間以上もスクールバスに乗ると、バスにトイレがないからもらしてしまうのではないかと話を聞く。	音江小
	⑦複式学級は先生が大変だと思う。子どもにとっては新たな発見があって楽しいといっているが、中学校で大人数になったときに対応できるかが不安である。	多度志小
	⑧少人数(3・4人)の学級はすごくアットホームで良いと思う。しかしながら、このままの状態が続くことが良いのかという疑問と今の状態では人数が少なすぎて学校統合があるのではという不安がある。	北新小
	⑨保護者として、自分の子どもにスポーツをさせたいし、社会性を考えると1クラスに最低でも25人以上が望ましいことから、意見としては統合してほしい。	納内小
(2)統合の検討についての意見	①地域としては学校を残してほしいが、子どもたちのことを第1に考えるべきであり、保護者としっかり話をして進めてほしい。	一已小、深川小 納内小、多度志小

	②保護者や住民が100%賛成ということはありませんので、教育委員会としての根拠・理由をしっかりとって方向性を決めていく必要があると思う。	深川小
	③少人数で勉強することのメリットもあるが、大勢いるほうが競争心も出るとの意見もある。学習面やいろいろな行事等でのメリット、デメリットなどについて保護者と意見交換することにより、その先があると思う。	多度志小
	④大きな学校と小さな学校が統合する場合には、いじめなどの心配があるので、小さな学校に対して格別な配慮をお願いしたい。	音江小
	⑤1学年15・16人の人数がいれば、それぞれ役割があり活躍できる部分があるので、とても素晴らしい環境であったが、この頃は少なくなりすぎてさびしいと感じる。他の学校と統合することが本当に良いのか、子どものためにどのような方法が在るのかを皆で話し合っていきたい。	北新小
(3)その他	①すぐに統合しないにしても、小規模の学校と大規模の学校間の交流授業があっても良いと思う。	納内小
	②同一中学校区内の小学校の児童が修学旅行や宿泊研修を合同で行うなどの勉強以外の交流事業の実施について積極的に検討してほしい。	北新小

4. 今後の小学校の学校配置の考え方

平成33年度までの児童数及び学級数の推計については、前述のとおり、平成24年度の基本方針策定時と大きくは変わらない状況と判断できるものであり、社会情勢においても、次期学習指導要領における改訂予定や現在の学校施設に使用においても、状況に変化がないと想定される場所である。

さらに、平成28年8月下旬から9月上旬にかけて小学校区ごとに開催した「小学校に係る学校配置基本方針地域協議会」においては、3.の(2)のとおり、スポーツへの参加や社会性の培う観点から統合を希望する意見や中学校に進学した際の大人数となったときの不安あるという意見、統合を希望しないとの意見があった。

以上のことから、小学校の学校配置については、当面は平成24年11月に決定した配置案を継続することとし、今後においては、極端な児童数や学級数の減少や社会情勢の変化等が見込まれる場合に、配置案の検討を行うものとする。